

<主に向かう真っ直ぐな道>

マルコ 1 : 1 ~ 8

神の子イエス・キリストの福音のはじめ。【1節】

神がイエスキリストによって、
人類の救いを完成させた。

【マルコ福音書の主題】

神の子としてのイエスリスト。仕えるために
この世に来られた。(しもべとしてのキリスト)

【マルコという人物】

イエス様の 12 使徒ではなかったが、使徒たちの時代をともに生きた。

- ・マルコの家は初代教会の弟子達が日常的に集まっては祈る場所。(使徒 12 : 12)
- ・ペテロは「私の子マルコ」と呼ぶほど親しかった。(I ペテロ 5 : 13)
- ・使徒パウロの同労者バルナバのいとこ (コロサイ 4 : 10)
- ・パウロとバルナバともに宣教の旅に同行したが途中で離脱した。(使徒 15 : 37 ~ 39)
- ・後には使徒パウロの信頼を回復した。(II テモテ 4:11)

福音・・・ギリシャ語：ユーアンゲリオン

「良いおとずれ」を表す言葉。

その昔、戦いに勝った、皇帝が即位した、等々の良い知らせをさした。

しかし新約の時代になって、最上級の良きおとずれが現れた。

以後、「イエスキリストの救い」そのものを示すようになる。

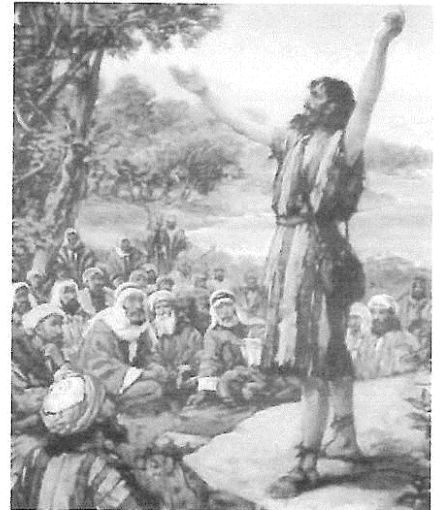
預言者イザヤの書にこう書いてある。

「見よ。わたしは使いをあなたの前に遣わし、あなたの道を整えさせよう。荒野で叫ぶ者の声がある。

『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』

そのとおりに、バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを
宣べ伝えた。

【2～4節】



「悔い改め」・・・ギリシャ語で：メタノイヤ

「向きを変える」「心の方向転換」

ヨハネのことばを聞いた人々の中には、律法学者やパリサイ人達もいた。

自分達は対象外だと自負していた人たち。

【律法】 「トーラー」

「的を射た」人生を歩むための「指針」として与えられたもの。

この的であるイエス・キリストへと導く為のもの。しかし、パリサイ人や律法学者たちはイエス・キリストを見出すことが出来なかった。

神の言葉ではなく、人の教えに固執していたため。

人の心は荒野のような状態で、主が入ってこられるのを妨げる様々な障害がある。

でこぼこの道、これを整え、これを真っ直ぐにして、イエスキリストを迎える準備をせよとヨハネは悔い改めに招いた。

【アメイジング・グレイス】 ジョン・ニュートン作

♪“Amazing grace How sweet the sound. That saved a wretch like me!”

「wretch」・・・哀れ、惨め、悪党、恥知らず、嫌われ者